

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	4370800502
法人名	社会福祉法人 愛隣園
事業所名	愛隣の家グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4370800502		
法人名	社会福祉法人 愛隣園		
事業所名	愛隣の家グループホーム		
所在地 (電話番号)	熊本県山鹿市津留2025-1		(電話) 0968-43-0009
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成20年3月18日		

【情報提供票より】(20年3月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 平屋建て	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

(4) 利用者の概要(3月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	74 歳	最高	105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横手医院 三森病院 山鹿リハビリテーション病院 大橋通りクリニック 宮坂歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体の特別養護老人ホームに隣接し、広々とした敷地には多様な樹木が茂る公園や東屋があり、のどかな落ち着いた環境にある。代表者は「ありがたいと思う心」を大切にしよう職員に指導しており、職員の人柄に温かさが感じられた。チームワークが良く「自分がしてもらいたいことを、入居者にしていこう」という思いで協力し合い、サービスの向上に意欲的に取り組んでいる。法人全体の協力体制があり、緊急時や安全管理の支援体系も整備されている。法人施設間の交流が日常的に行われ、趣味のサークル活動参加やホーム喫茶への招待、敬老の日には寸劇や手作りのお菓子のプレゼンなど、入居者が楽しめる機会が多く持たれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題には速やかに改善に向けた取り組みが見られ、サービスの向上に意欲的な姿勢が感じられた。課題となった、介護計画に沿ったケアの実践と記録の徹底は、職員が毎日必ず目を通すファイリングに、介護計画と個別記録を一目でできる配置にするなどの工夫が行われていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自で行った自己評価を全員に配布し、検討会を実施した上で改めて評価を見直すなど、自己評価の意義を踏まえた丁寧な取り組みが行われていた。また、外部評価の意見を踏まえ、改善していく姿勢が見られ、サービス改善への熱意が感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では入居者の生活の様子やホームの活動状況の報告が行われ、地域代表を通して住民に認知症の理解が広がっている。地域からの行事案内には、場所が分かりやすいように地図が添付されており、会場の公民館の段差は車いす用に広いスロープを設置する対応が図られた。住民は好意的で、特別視せず気軽に挨拶が交わされ、入居者は安心して行事を楽しむことができています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会で無記名のアンケートを実施したり、家族訪問時には話しやすい関係作りを行うなど、苦情・要望を発言しやすい機会が作られている。苦情・要望は真摯に受け止め、職員で話し合い、改善に取り組む姿勢が見られた。家族への説明もその都度行われている。</p>
重点項目④	<p>法人の初代理事長以来数十年間、地域に根ざした活動が続いており、地域との交流が活発に行われている。日々の散歩時や庭での日向ぼっここの時に、通りがかりの人との気軽な挨拶が交わされ、地域の行事に積極的に参加し、法人主催の行事には地域住民が参加したりと、双方向の交流が見られる。お茶とおしゃべりに気軽に立ち寄る地域の人もあり、保育園や小・中学校の子供達の訪問も多く、入居者の楽しみになっている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族や地域住民とつながりながら、楽しい暮らしが継続できるように」「それぞれ異なる特性を持つ入居者を、そのままに受け入れ、その人らしい生き方が全うできるように」という職員の思いを、理念に掲げている。理念は数年毎に全職員で見直し、地域密着と個別ケアの意義を踏まえた内容としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員の話し合いで決め、共有している。理念を目に付く場所に掲示し、日々の意識づけに役立たせている。毎朝の申し送り時にミニカンファレンスを行い、個別ケアについて検討しながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民と気軽に挨拶する関係を作りたいと、どんどやや祭り等、地域の行事に積極的に参加している。小・中学校のリサイクル回収活動への協力や、PTA主催の夏祭りに出かけたり、保育園園児の訪問など、さまざまな世代との交流が図られている。法人主催の夏祭りでは各施設の職員も出店を開き、家族の参加を呼びかけ、家族と共に地域住民との触れ合いを楽しむようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をグループホーム会議で説明し、職員の理解を得ている。自己評価を意欲的に取り組み、全員で課題の発見と改善策の検討を行い、外部評価にも真摯に取り組む姿勢が見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、区長、老人会会長、公民館役員、民生委員、包括支援センター職員、市職員、入居者・家族が参加している。ホームの状況報告や認知症についての説明を行い、地域の理解が深まっている。地域の行事では、車イス用のスロープが準備されたり、地図入りの案内状が送られたりするようになってきた。また、参加者全員が意見を出せるように配慮した結果、行政や包括支援センターへの質問・要望、家族の意見も出るようになり、活発な意見交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員と話し合う機会を積極的に持ち、連携してサービスの向上に取り組んでいる。山鹿市は県認知症地域支援体制構築事業のモデル事業都市になっており、ホームも検討委員会のメンバーとして市職員と協力し、認知症支援活動を実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多く、訪問時に生活状況や健康状態・現金出納明細を報告している。毎月発行の「グループホーム便り」はスナップ写真が多く、生活の様子がよく分かるように工夫し、個々の状況を書いた手紙を添えて、郵送されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見交換や無記名のアンケート調査を実施し、意見・要望を出しやすい工夫が行われている。訪問時にも話しやすい雰囲気配慮し、信頼関係を築くことで、安心して要望が話せるように努力している。要望には迅速に対応し、説明を行うことで家族の理解と安心を得る努力が行われていた。	○	認知症状の進行につれ、家族の不安は尽きないと思われる。今後も細やかな説明で、家族の安心を図る対応の継続が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	誠実で温かい職員に恵まれ、法人全体が1つの大家族との意識を持ち、離職はほとんど見られない。馴染みの関係の重要性を認識し、人事交代を極力抑えている。新職員の導入時は、入居者・家族に紹介し、入居者個々の特性や介護方法についてのオリエンテーションを行うなど、入居者への影響を最小限に抑える努力が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の特養ホーム主催の研修会に毎月参加し、外部研修は、鹿本・菊池地域のグループホーム研修会や県のグループホーム協議会の研修会等に、可能な限り多くの職員が参加できるようにしている。参加後は報告書を作成することで、内容を再確認し、会議等で他職員への伝達を行い、情報の共有を図っている。また、管理者は入居者への対応方法や介護のあり方を、日々指導し、職員育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回の地域のグループホーム研修会に参加し、情報交換を行い、サービスの質向上に活かしている。また、他施設の職員実習を受け入れ、電話での相談も受ける等、ネットワークが広がり、交流も深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅訪問して生活状況を確認し、ホームでも自宅での生活が継続できるように努めている。老人保健施設や軽費老人ホームからの入居の際は、施設訪問し顔なじみになって、施設での生活状況を把握するようにしている。家族との面談で性格等の情報を得、ホームでの友達作りの橋渡しを行い、早く馴染んでもらうような工夫もされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者がこれまでに得た知識や特技を、発揮しやすい場面を多く作り、職員は側に寄り添い、協力し合う関係が築かれていた。キッチンに入居者が数人集まり、職員を交えておしゃべりを楽しみながら、野菜切りやピーナッツの皮むきをする姿が見られた。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の何気ない一言をメモに記録し、随時アセスメントシートに情報をまとめるなど、よりの確に思いや意向を把握する工夫が見られた。また、入居者の立場に立った視点を持ち、普段の表情や仕草からも意向を汲み取るように努めていた。アセスメントシートは「私はこうしてもらったら嬉しい」「人生マップ」等のツールを使用し、言動だけでなく生活歴や家族背景も考慮した意向の把握が行われていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員を置き、担当職員が日々の観察や記録を基にアセスメントを行っている。その後、ケアマネージャーを中心に家族の要望や医師の意見を聞き、全職員で検討し、介護計画を作成しており、入居者・家族と一体となった計画作成の仕組みが作られている。個別記録は状態変化が一目で分かるよう、書式を職員で考案し、アセスメントに活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは、モニタリング、ミニカンファレンスを行い、入居者・家族の要望を再確認し、新たな介護計画を作成している。心身の状態に変化が見られたら、速やかに変化に応じた介護計画の変更を図っている。モニタリングでは、よりの確な評価・分析を行うためのツールを検討するなど、熱心な取り組みが見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人は児童養護施設・身体障害者療護及び通所施設・軽費老人ホーム・特別養護老人ホーム等、多様な福祉機能を有し、それらが隣接している。各施設との連携、協力体制が整っており、法人全体の多機能性を活用した支援が行われている。併設施設で行われるクラブ活動や行事に参加することで、多くの交流が持たれ、認知症状の維持・軽減につながっている。また、緊急時の支援や、看護師のアドバイスを受け、安心・安全な生活が確保できている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関への受診を支援している。医師への情報提供や療養指導が必要な場合は、看護師が家族と共に受診に付き添い、医師との連携を図っている。また、職員に疾病や療養の注意点を説明し、適切な看護・介護の提供に努めている。入院時は職員が馴染みの物を持参し、頻回に面会に行くなど、環境変化による混乱防止の取り組みが行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、本人・家族と早期から話し合い、意思確認が行われている。グループホーム会議で検討し、家族の協力や医師との連携を図りながら、看取り介護を行っていく方針が職員に共有されている。これまでに、余命わずかだと診断された入居者に、医師や家族と協力しながら濃密なケアを行った結果、生きる力を取り戻した事例を持っている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に配慮し、トイレは小声での誘導が実施されていた。また、言葉づかいや対応にも心配りが感じられ、入居者に敬意を払い、一人ひとりを大切にする姿勢が感じ取れた。面会簿を玄関に置くことや、居室のドアに名札を掛けることも家族の了解を得ている。多数の人が見る法人の広報誌へは入居者の写真掲載を控えるなど、プライバシー保護への配慮が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のあるがままを受け入れ、個々のペースを大切に支援が行われている。午後のひととき、入居者が5、6人が庭でのどかに日向ぼっこし、職員と共に笑顔でおしゃべりしている姿が見られた。依存傾向がある入居者には、手出し過ぎないように注意し、言葉の背景にある思いを汲み取り、自主性を促す対応が工夫されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンには一人ひとりの詳細な嗜好メモが貼られ、献立作成や調理の際に確認し、美味しく食べてもらおうとする努力が見られた。糖尿病や胆石などの治療食にも力を入れており、食材や盛りつけ等を工夫し、制限はあっても満足感が得られるよう配慮されている。夏は桶そうめん、冬は鍋料理、気候の良い日は庭でおにぎりと卵焼きを食べるなど、食事を楽しむ工夫が感じ取れた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっており、朝風呂希望にも対応している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など、ゆっくりと入浴を楽しめるような工夫もある。入浴拒否の人には、その人にあつた対応を見つけ出し、無理強いしないで納得して入ってもらうよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂のテーブルでは、105歳の人が熱心に習字をしており、折り紙を折る人も見られた。作品は自室や廊下などに掲示し、励みになっている。午後には皆の歌声が聞こえ、自分からは歌の輪に入れない人には、きっかけ作りが行われていた。洗濯物干しは、転倒防止のため、座ってもできるような低い物干しを用意。入居者の安全を確保しつつ、意欲を持って活動できる場が多く用意されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、近くの公園への外出、法人の施設で行われる催し物やコーラスクラブ等への参加など、日常的に外出支援が行われ、気分転換が図られている。回転寿司を楽しむ姿など、いろいろな外出先での笑顔が収められたアルバムからも、意欲的な外出支援の実績が見られた。	○	最近では外食の機会が少なくなっていることから、外食や庭での食事の機会を増やしていくことを検討されており、実現が期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せず、出入りが確認できるようにベルを設置している。居室のベランダの扉は自由に開閉でき、時には黙って外に出られることもあるが、こまめに所在確認を行い、敷地が広いため通りに出られる前に職員が気づき、安全が確保できている。帰宅願望がある人に「出かける時は職員に言って、帰ってください」と話す、外出を伝えて出かけるようになり、本人が納得するまで職員が付き添うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署の指導による火災訓練を実施し、職員のみでの訓練と入居者も参加する火災訓練を年に6回実施するなど、熱心な取り組みが行われている。訓練には隣接施設の職員も参加し、協力体制が整っている。特養ホームにつながる緊急用ボタンが設置され、迅速な応援が受けられるようになっている。また、毎晩隣接施設職員の見回りと声かけが行われており、火災防止が図られている。	○	運営推進会議で、地域の協力についても話し合う方針であり、地域との相互協力体制が組まれることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取量をチェック・記録し、疾病の早期発見と脱水防止を行っている。栄養バランスを考えた献立になっており、野菜類など繊維の多いものを吐き出してしまう人には、咀嚼・嚥下しやすいよう調理の工夫が見られた。また、濃い味付けを好む人には、見た目に味が濃く見える工夫をし、塩分を取りすぎないように注意されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂は広々として開放感があり、職員が持ち寄った花があちらこちらに飾られ、季節感が漂う空間となっている。リビングは2室あり、テレビを見たり、くつろぐ部屋と、訪問した家族とゆっくり過ごす部屋とに、使い分けられている。居室2つに1ヶ所ずつトイレが設置され、夜間の排泄にも便利になっている。夏の強い日差しには寒冷遮り簾、よしずが設置され、快適な住環境への工夫が見られた。	○	テレビが置いてあるリビングにはイスが数列並べてあり、家庭的な雰囲気にやや欠けるように思われる。イスの配置などに工夫が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビ、ラジオ等の持ち込みが多くあり、家族写真や習字等本人の作品が飾られ、入居者個々の特徴が溢れた居室になっている。壁に大きなボードを設置し、家族が撮影したスナップ写真をいっぱい貼ってある部屋もあり、居心地の良い部屋作りと共に、家族とのつながりを重視した取り組みが感じられた。エアコンは各室で調整でき、暑がりな人、寒がりな人など個々に応じた温度設定が可能となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛隣の家グループホーム
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山鹿市
記入者名 (管理者)	岩橋 美喜子
記入日	平成 20年 2月 17日

(様式1)

自己評価票(参考例)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をわかりやすい言葉に置き換えてかかげている。独自の理念を作り上げている。地域に出かけ、交流することに努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・台所・職員トイレ等、日々、目のつく場所に掲示している。職員全員が、常に意識して働いている。朝の申し送り時に、理念の実践につながるように話し合いをしている。	○ 個別のニーズを深く掘り下げ、職員全員で共有し、実践していく。 センター方式の導入
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をわかりやすい言葉に置き換えてかかげている。利用案内時に、わかりやすく説明している。家族や地域の方へ広報などで理解してもらえるよう取り組んでいる。家族会にて説明し、理解を得る。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣を散歩時等、道路での挨拶に努めている 法人夏祭りや慰問（秋の大祭の馬追いなど）の時に、声かけができています 外出時など出会う人々に気軽に挨拶・声かけに努めている。又、地区の行事などに積極的に参加し、親睦を深めている。気軽に立ち寄り、お茶飲まれる方もいるが、もっと増えるように努めたい。	○ 近隣への散歩や外出を増やし、気軽に話しかけたい おつきあいを増やしたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	どんどや、地域の祭り（三岳祭り、法人夏祭り等）に参加している。又、作品を出品している。 小中学校のリサイクル回収活動への協力やPTA主催の小学校での夏祭りにて交流ができています。 地元の人々との交流を増やしたい。 地区行事などできるだけ積極的に参加している。	○ 地区行事などできるだけ積極的に参加する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。(九看大の福祉学科と看護学科、城北高校生、新規事業所の職員など)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	全員で自己評価に取り組んで、質の向上に努めている。自己評価と外部評価については、グループホーム会議での話し合いや掲示などにより理解を深めている。評価を活かし、具体的な改善に全職員で取り組んでいる。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	評価結果や改善への取り組みを報告し、話し合っ て、意見を求めている。 会議中での意見や話し合いが、サービス向上に活 かされている(祭りでスロープの設置やイスを増や したり、出入り口が行き来しやすくなっていた)委 員全員から意見を出してもらえるように配慮して いる。	○ 地域との交流について、話し合っ て行きたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議が行われるようになって、事業所 だけでなく、地域の方も、市担当者の方が非常 に身近に感じられ、話しやすくなり、連携がと りやすくなった。山鹿市の県認知症地域支援 体制構築事業により、山鹿市との連携ができ、 サービスの質の向上に取り組んでいる。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者は家族より相談受け、助言や協力などの 支援している。(現在まで、5件の相談・協力)職 員は大まかな知識はあっても、詳しく学ぶ機 会はない。	○ 勉強会の開催
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	全職員が虐待防止に関心を持ち、事件の報道を 話題にあげ、意見を出し合っている。また、毎 月の身体拘束委員会に参加し、全職員に回覧・ 報告している。毎月の全体会議では、身体拘束 について学ぶ機会が設けてある。もっと学ぶ機 会が必要だと考えている	○ 勉強会の開催

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、不安や疑問を必ず尋ね、理解・納得を図っている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から、本人の意見や要望を聞いたり、察する努力や言いやすいように働きかけ、又、これを運営に活かしている 運営推進会議にて、発言されるように働きかけている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>現金出納明細書は毎月家族に渡すなど、報告している。日常生活については、毎月のグループホームたよりや面会時に個々に合わせた報告をしている。職員の移動あった時は、面会時と家族会（年2回）には必ず報告している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会（年2回）にての話し合いや無記名アンケートの実施、面会時の言いやすい働きかけを行っている。苦情の受付体制を作り、入所時に家族に説明もしている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、職員に対し、毎月のグループホーム会議や日々意見や提案を言えるように働きかけ、すぐに反映させている 運営者は、月1回の所属長会議・全体の職員会議や日頃の報告・相談にて、職員の意見を反映している</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努め、変更をすぐに行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員の対応は重要と考え、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、やむ得ない場合も、引継ぎの面で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。家族に対しても配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	鹿本・菊地地域のグループホーム研修会では年4回、隣接の特養での研修会（講師依頼）、県や他事業所の研修会などなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修後は必ず報告書提出し、全職員が必ず閲覧。 事故予防、衛生管理、身体拘束委員会参加及び報告月1回の全体会議で事故予防の訓練行う。	○	積極的な研修等の参加を継続し、質の向上に努める。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊地地域のグループホームにおいて、年4回研修会を行い、交流会する機会を持ち、質の向上を目指している開設前は、他の事業所にて実習をすることで交流を通じ質の向上につながっている。また、他の事業所開設前の職員の实習も受け入れ、交流により質の向上につながっている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接の施設合同の職員旅行、忘年会、ビーチバレー、ボーリングなどの交流会への参加やグループホーム職員での食事会において、職員相互の親睦や気分転換が図られている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者と月1回定期的に課題・意見を出せる機会を設け把握している。また、月1回の全体会議においても全職員の状況把握し、職員が意欲を持ち働けるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や要望を言いやすい働きかけや本人と向き合う姿勢を持ち、配慮や努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談しやすい声かけや雰囲気作りを行い、家族との信頼関係作りに努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、その時、本当に必要としている支援を共に考え、必要により、他の事業所や他のサービスを説明、紹介をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅などを事前に訪問したり、事前に家族・他事業所などからの情報をもとに全職員で馴染める工夫を検討し、家族との相談や協力を得て、サービスを開始してもらっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活全般において、本人の経験や知恵を言いやすい働きかけにより、一緒に楽しむ場面作りや、職員が学べる場面作りにより、支え合う関係を築けている。また、本人のこれまでの人生を理解した上で、共に生活を考えるように全職員が接している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所時より家族と共に支え合うことに理解を得て、夏祭りなどの行事や家族会、誕生会に必ず声をかけ協力を得る関係が出来ている。また、数人だが、普段でもホーム内で一緒に食事したり、季節の飾りつけ、衣類の衣替、草取り、食器洗い、通院介助、外出など、一緒に本人を支えることができています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	新しくセンター方式を家族に記入してもらって理解を深めたり、本人が家族に上手に気持ちを伝えられない方に職員が本人の想いや普段の言葉を伝えている。また、家族に状況報告する時に本人の良いところ優先して伝えたり、面会時に家族と安らげる空間作りに努めている。家族会年2回開催。春の家族会後の昼食は、家族と共に楽しんでもらっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への散歩や友人への電話、友人への手紙、隣接の施設におられる馴染みの人とおしゃべりを大切に、支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性・要望を考え、食堂や居間での席を配慮して、利用者同士が支え合うことができています。又、孤立することが無いように、職員が橋渡しになり、より良い関係づくりを支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に入所された方に会いに行き、関係を断ち切らないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	私はこうしてもらったら嬉しい、人生マップなどシートの活用により、本人らしい生活について担当者が情報をまとめ、全職員が本人の意見や要望を把握し、共有している。又、要望の訴えない方には、顔の表情や行動、態度、家族からの情報をもとに本人の想いを検討している	○ センター方式の導入にて、本人の意向などをもっと深く掘り下げたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の施設や家族からの情報だけでなく、入所後も家族や本人との会話から生活歴を収集している。又、新しくセンター方式を活用し、家族にも記入してもらおうなどにも努めている。	○ センター方式の導入にて、本人の意向などをもっと深く掘り下げたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活歴や本人の想いを踏まえ、個別の1日の過ごし方を把握している。又、少しの変化でもすぐにミニカンファレンスにて検討し、全職員で連携をとり、把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制にて、「私はこうしてもらったら嬉しい」、「人生マップ」などのシート活用、家族の訪問時に意見や要望を聞き、全職員で検討する機会を持っている。訪問回数のない家族には、ホームから聞く機会を作っている。主治医からの意見も聞いている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行い、見直ししている。必要に応じミニカンファレンスを行い、臨機応変に対応している。家族には随時連絡をとり話し合っている。又、本人の意向に変化や新たな要望がないかを常に考え作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	運営推進会議にても働きかけをしていきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員が本人の自尊心を傷つけないように常に考え、声かけやケアを行っている。特にトイレの声かけ等は、プライバシーを損ねないように配慮している。面会簿や居室の名札、広報誌掲載などに関しては、事前に家族の了承を得ている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選択肢を作り本人が選択しやすい場面作りや、日常生活の中で希望、関心、嗜好を言える働きかけをゆっくりとした声かけで行っている。本人の選択後や自分で言えない方に対しても反応や表情などで納得されているかを確認している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペース優先で、柔軟な対応を心がけている。地域や関連施設での行事等も強制することなく本人の選択に任せている。【その時に何を優先すべきか】を絶えず頭の中に入れている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に合わせ、地域的美容室や移動美容室を利用されている。毎日、化粧されている方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみは大きいと考え、個人の嗜好を日々の会話や食事風景から全職員が把握し、食事を個人に合わせ、喜びある食事になるように努めている。特に食欲ありすぎの方（糖尿病）への調理や盛り付けの工夫が出来ている。個人の能力に応じ、調理や盛り付けなどできる場面作りを積極的に支援している。プランターに野菜を共に作り収穫により、楽しみあるものになっているが、植え付けの量が少ないので増やしたい。	○ 野菜の植え付けを増やす。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせ、朝のパン、玉子ご飯、減塩梅干し、漬物、ココア、コーヒー、ヤクルト、ビールなど個人ごとに対応している。オヤツもできる限り、本人の希望にあわせたり、手作りの機会も作っている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用によりパターン把握し、時間ごとに誘導したり、布パンツにパットのみ対応したりしている。陰部洗浄や清拭も随時行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制であり、回数や順番は、本人の希望に合わせている。しょうぶ湯やゆず湯など季節を味わい楽しめる支援も行っている。朝風呂希望の方にも支援できている。夕食後の入浴はやってない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援し ている	本人に合わせた就寝時間に眠って もらっている。部屋の温湿度に注 意し、加湿器や濡れタオル、又、 エアコンや湯たんぽ使用。自由 に2つの居間のイスやソファや 畳にて休息してもらっている。 不眠時に、ホットミルク、ココ アなどの対応もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる	その人の興味や楽しみ、馴染み の行事に合わせたお出かけ先へ の外出や季節の花見等の支援を している。調理、清掃、洗濯、 片付け、日めくりなど、本人の 能力や得意なことを活かした役 割を楽しくできるように支援し ている。また、本人が1人で出 来る工夫の実行。季節感を大切 にした習字、ゲーム、ホームの 飾りつけなどの働きかけをして いる。好きな番組はビデオを活 用。もっと本人の生活歴を活か したいと常に考えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	全職員、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、本人 の管理能力に応じ、個人の希望 、及び、家族との話し合いによ り、自己管理や外出時のみ等の 支援をしてる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している	本人に合わせた買い物、日光浴 、散歩、近くの公園、病院受診 の外出の支援などを行っている 。重度の方でも季節を味わって もらうことを全職員が大切に している。関連施設での催し物 、法話会、ホーム喫茶、コーラ スクラブへの外出支援もできて いる。外食の機会が減っている。	○	外食・庭での食事の機会を増や したい。
62	○普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支 援している	市民会館や八千代座、又、農協 の催し物や地域での祭りなど個 別あるいは、家族と出かけられ る機会を作り、支援している。 家族の協力、本人の希望など により、外出回数に個人差はあ る。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけることができる。又、電話がかかってくることもある。少人数だが、手紙や年賀状のやり取りをされている方もいる。電話は2台設置により、使いやすい場所を利用してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	2つの居間・居室・食堂を、本人や家族の選択により使用し、気兼ねなく過せるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接施設との合同の身体拘束廃止委員会に参加することにより、理解や意識を高め、全職員への回覧や報告。又、研修参加のより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の面から、夜間は鍵をかけているが、昼間は鍵をかけていない。本人が自由に開けることができる昼間は、玄関にベルを付け配慮し、自由に出入りしてもらっている。帰宅願望ある方には、本人了承の上で、職員と一緒に納得されるまで歩いたりし、支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の中心に対面式の台所があり、調理しながら利用者の様子や玄関の出入りも把握でき、安全に配慮している。精神状態などの情報交換を職員同士で密に行っている。夜間においては、個人ごとに、30分～2時間ごとに巡視を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食の可能性のある方など危険防止に、個人ごと置く場所を配慮して対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	隣接施設との合同の事故予防委員会に参加することにより、理解や意識を高め、全職員への回覧や報告ができています。毎月の全体職員会議にて、事故予防訓練など行われている。火災に関しては、訓練や研修会参加ができています。食前に楽しく嚥下運動を行っている。天袋の奥にカーテンの工夫で事故防止にも努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、全職員がマニュアルを把握している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	周りに関連施設が多いこともあり、緊急事態には協力体制ができています。又、火災訓練もできており、緊急用ボタンで隣接施設からの協力体制及び訓練もできています。毎晩、隣接施設職員の声かけ、見回りをしてもらっている。	○	今後は、運営推進会議を通じ、協力体制を話しあって行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や状態変化に応じ、家族と随時話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の個別バイタルチェックや入浴時のチェックなど行い、少しでも変化のあるときは、看護師含め、職員間の情報共有を確実にし、特変時は医師との連携と早急な対応を行っている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別処方箋ファイルが、常時すぐに見れる場所においてあり、全職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。変更時は、確実な申し送りやふせんや袋記載の工夫を行っている。症状の変化時は、看護師・主治医に相談や報告を行っている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルトや野菜・繊維の多い食品を使った食事作りの工夫を行っている。又、水分補給と運動や散歩の働きかけの支援にて、個人に合わせた自然排便になるように働きかけている。研修会への参加も出来ている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの能力に応じた支援を行っている。又、週1回の入れ歯洗浄（薬）を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の支援による、本人の嗜好を考えた栄養バランスのとれた献立作りや食事以外での確実な水分補給の支援が出来ている。又、食事コントロールが必要な方でも家庭的で満足できる工夫を行っている。朝のパンや玉子ご飯など本人の習慣を大切にし、食事摂取量のチェックも行い支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接施設との合同の衛生管理委員会に参加することにより、理解や意識を高め、全職員への回覧や報告ができています。感染予防のマニュアルファイルが常時すぐに見れる場所に置いてあり、実行出来ています。勉強会に参加したり、県からなどの新しい情報はすぐに全職員が回覧しています。外出後の手洗い・うがいの支援の徹底。インフルエンザ予防接種を受けてもらっている（入居者、職員）。職員は調理しているので、検便を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、包丁の熱湯消毒やまな板・ふきん・台拭きのハイター消毒、調理器具は乾燥機使用を徹底してやっている。又、食材の袋に大きく期限を記載し、期限内の使用の徹底ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに、花、木、芝生など自然があり、出入りしやすいように努めている。車イスも出入りしやすいようになっている。玄関には、家族の手作りの飾りなど置き、親しみやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらうために、入居者と家族が共に季節に応じたホーム内の飾りつけをしたり、季節の花や果物を飾っている。必要に応じ、寒冷遮やすだれ・よしず・障子・カーテンを使用したり、テレビやラジオの音量にも常に配慮している。個人に合ったイスの使用にも努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・2つの居間があり、ソファ・数種類のイスが随所に置いてあり、自由に選んで過ごせる場所に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◎実践の中での気づきを大切に、すぐにケアの改善をし、入居者に本人らしく、笑顔で、暮らして頂ける様に、入居者優先に考えて、日々努力しています。

◎食事は大きな楽しみと考え、①季節を味合う献立に力入れています。 ②よせ鍋や桶ソーメンなど季節感も大切にしています。 ③個別の嗜好を細かく把握し、楽しく食卓を囲めるように、柔軟な支援を行っています。 ④入居者と共に”手作りお菓子”を楽しんでいます。

◎入居者、家族、地域の方、職員、行政などが共に支え合い、”楽しく、みんなと つながろう”と考えています。